

緊急事態宣言下における 東京都議会議員のTwitter・ブログでの発言まとめ

1. Twitter

対象：全都議会議員のうち、ブログを保有する議員の全文

期間：2020年4月7日～5月25日

方法：Rによりワードクラウドを生成し、頻出単語などを分析

品詞：名詞

分類：①全議員、②男女別、③世代別、④会派別、⑤都政与野党別、⑥23区か否か

除いた単語：記号（#,/,・等）,"これ","やす","ひろ","す","それ","きょう","これ","ly","html","bit","com","bit","E"

【①全議員】

まず、期間中（2020年4月7日～5月25日）にTwitterを使用し情報を発信した東京都議会の全議員の分析結果（頻出単語数：150語）を見ると、全体的に新型コロナウイルス関連の単語が多くを占めていることが分かる。また、最頻出単語の中に「東京」、その他にも「都」「都議会」「都民」「都内」「都議」「足立」などの文字が含まれていることから東京都に関する情報発信が主になされていたことが伺える。「コロナ」「感染」「検査」「拡大」「ウイルス」「陽性」「患者」「医療」などの単語から当時の新型コロナウイルス感染拡大の様子や、それについての発信が多かったことが分かる。また、「支援」「休業」「事業」「給付」「支給」などから休業要請やそれに伴い休業を余儀なくされた施設への補正、対策などについての発信が頻繁になされていたことが見て取れる。緊急事態宣言中であったからか、「緊急」「自粛」「宣言」などの文字も見られる。また、オンライン授業やテレワークなどが対策として話題になり始めていた時期だったということもあってか「オンライン」の文字もある。



図1.1 Twitterアカウントを保有する東京都議会の全議員の全文から生成したワードクラウド（Freq=150）

【②男女別】

男女別は、東京都議会における女性議員（図1.2）、男性議員（図1.3）のTwitterでの発言における頻出単語75語を分析結果として示す。男女共に新型コロナウイルス関連の単語が中心であり、関連の話題を発信していたことが伺える。また、出現頻度が高い単語の中では「感染」「コロナ」「新型」「東京」「協力」などの文字が共通して見られる。相違点としては、男性（図1.3）では大きく表示されている「支援」「休業」「要請」が女性（図1.4）では出現頻度を落としており、フォントサイズが小さくなっていたり、表示から外れている。共通して「医療」「拡大」の文字が見られ、女性では「病院」男性では「陽性」「マスク」といった単語が見られるなど、新型コロナウイルス拡大と医療現場に関する話題にも言及していたことが伺える。また、男性では薄紫色のフォントとしてやや大きめに表示されている「国」「知事」の文字が、女性では「国」がワードクラウドに表示されず、「知事」もオレンジ色のフォントとして小さく表示されている。男性ではオレンジ色で表示されている「小池」も女性では緑色へフォントサイズを落としている。男性で見られる「経済」の文字が女性では見られず、また女性で見られる「保育」が男性では見られない。また、党名は女性で「共産党」、男性で「公明党」が見られた。女性の都議のうち1/3強が共産党であり、また、男性の都議のうち1/5強が公明党である。



女性の都議会議員については、「感染」「コロナ」「東京」「協力」「新型」といった文字が目立つ。薄紫のフォントでは「累計」「患者」「検査」「対象」といった感染拡大に関する単語や、「休業」「支援」などの感染拡大に伴い営業自粛などを要請された店舗への補填などの話題に言及していることが伺える。「共産党」の文字が見られる。

図1.2 Twitterアカウントを保有する女性の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=75)



図1.3 Twitterアカウントを保有する男性の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=75)

男性の都議会議員については「コロナ」「東京」「感染」「新型」「支援」「協力」「都」といった文字が目立つ。薄紫色のフォントでは女性では見られないあるいはフォントサイズの小さい「知事」「国」「都議会」といった単語が見られ、また、「拡大」「検査」「対策」「給付」「対応」といった感染拡大への言及やそれに対する休業要請、補償などを思わせる単語が目立つ。「公明党」の文字が見られる。

【③世代別】

世代別は、東京都議会議員を**30代～70代**に分類し、分析した結果を示す（図1.4：30代、図1.5：40代、図1.6：50代、図1.7：60代、図1.8：70代）。なお、30代～60代の分析では頻出単語数を**40語**とした。また、70代で頻出単語を40として分析を行ったところ、使用回数が40回を超える単語がなかったため分析を行うことができなかった。そのため、70代のTwitter分析においては頻出単語を**10語**とした。まず、それぞれの年代の発言語数の比較を行うと、30代、40代、50代と徐々に語数が増え、50代をピークとし、60代、70代と一気に減少する。これは30代（19名）、40代（31名）、50代（37名）、60代（30名）、70代（8名）という各年代の議員数と比較しても一致する。また、期間中（2020年4月7日～5月25日）にTwitterを使用し情報を発信した議員の割合を比較すると、それぞれ30代が**63%**、40代が**58%**、50代が**41%**、60代が**43%**、70代が**25%**であった。期間中の各年代のTwitterでの発信率は30代が最も高くなり、頻出語数を40で統一したワードクラウドの大きさを比較した順位とは一致しなかった。

次にワードクラウド上の単語を元に発言内容の比較を行う。30代、40代、50代では共通して「**コロナ**」「**感染**」「**東京**」がもっとも大きく表示されている。60代では3つとも大きく表示されているものの、ややサイズが小さくなっており、70代では「**共産党**」「**都議**」の文字がもっとも大きく、「**コロナ**」が次に大きい。他の世代には共通して見られた「**感染**」「**東京**」の文字が70代では見られない。70代にのみ「**共産党**」が見られたのは、期間中にTwitterにて発信を行った70代の都議会議員2名のうち1名が共産党員で、かつもう1名の都議会議員の5倍近くの文字数ツイートをしてきたからだと考えられる。

世代別に見られる主な単語は30代が「**感染**」「**東京**」「**コロナ**」「**都**」「**新型**」「**協力**」「**足立**」「**休業**」「**支援**」、40代が「**コロナ**」「**東京**」「**感染**」「**新型**」「**都**」「**協力**」「**支援**」「**協力**」、50代が「**感染**」「**東京**」「**コロナ**」「**新型**」「**緊急**」「**協力**」「**支援**」、60代が「**コロナ**」「**感染**」「**協力**」「**新型**」「**東京**」、70代が「**共産党**」「**都議**」「**コロナ**」「**支援**」「**休業**」などである。主要な単語では共通している部分が多いが、世代別では細かな相違点も目立つ。30代では「**子ども**」「**保育**」、40代にも「**子ども**」といった育児や子育てに関する単語が表示されているが、それ以外の世代では見られないことから、30、40代という議員内で比較的若い世代を中心に子育てや教育について言及されていることが分かる。また、30代では「**経済**」「**生活**」、40代では「**経済**」の文字が見られるが他の世代では確認できないことから、30代、40代がもっとも経済的な影響について発信していた可能性がある。次に会派について見ていくと、40代では「**ファースト**」、50代では「**ファースト**」「**公明党**」、60代では「**公明党**」、70代では「**共産党**」の単語が見られる。



図1.4 Twitterアカウントを保有する30代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=40)

30代の都議会議員については、「感染」「東京」「コロナ」「都」「新型」「協力」「足立」「休業」「支援」といった文字が目立つ。また、オレンジ色のフォントでは、「保育」「子ども」という単語が見られ、これは40代を除いた他の世代では見られない特徴であり、この年代が子育てや家庭の話題をより多く発信していたことが伺える。また、「女性」「男性」の文字が見られるのは他の世代にはない30代唯一の特徴である。

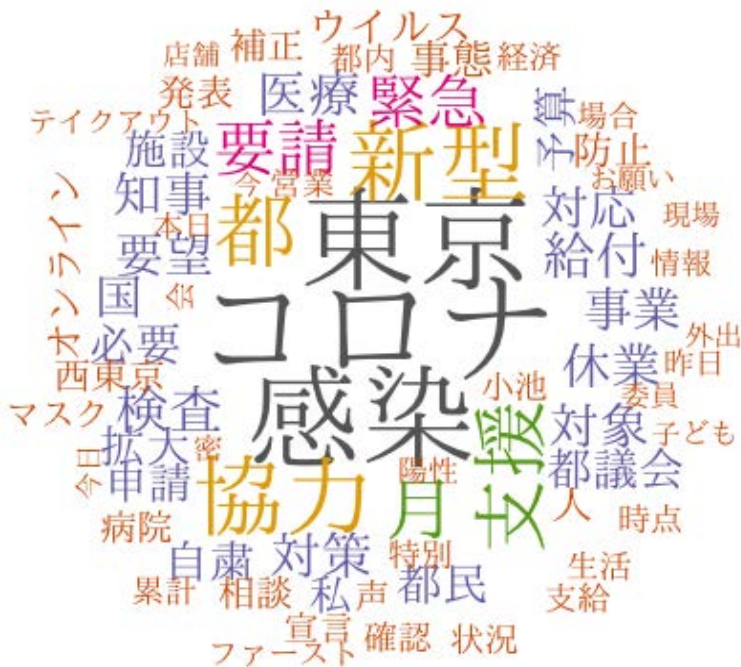


図1.5 Twitterアカウントを保有する40代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=40)

40代の都議会議員については、「コロナ」「東京」「感染」「新型」「都」「協力」「支援」といった文字が目立つ。また、「オンライン」の単語や、他の世代には見られない「テイクアウト」の単語も見られる。



70代の都議会議員については、「共産党」「都議」「コロナ」「支援」「休業」といった文字が目立つ。こちらも60代同様、文字数が少なく、Twitter利用者が少ないことがうかがえる。

図1.8 Twitterアカウントを保有する70代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=10)

【④会派別】

会派別では、議員数の多い順に、都民ファーストの会東京都議団（図1.9）、東京都議会自由民主党（図1.10）、都議会公明党（図1.11）、日本共産党東京都議会議員団（図1.12）、無所属〔東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会〕（図1.13）、立憲民主党東京都連合（図1.14）にそれぞれ所属する都議会議員のTwitterにおける発言の分析結果を示す。頻出単語数は30語とした。

全体的に、「東京」「コロナ」「感染」といった言葉が大きいのが、会派によって、使用頻度の高い単語（文字が大きく表示されているもの）に違いが見られ、また、Twitterでの情報発信にも差が見られることが分かる。全体的に見ると、共産党と無所属における議員のTwitterでの発言について、他の会派、あるいはブログでの発言と異なる単語が目立っているように思われる。特に頻出している単語について見ると、都民ファーストの会や共産党では特に「感染」という言葉を多用していることがわかり、感染拡大防止の呼びかけなどを強く行っていることが予想できる。また、自民党や無所属では「都」や「コロナ」「国」といった言葉が目立つことから、東京都や国に対する広い範囲での呼びかけや情報提供を行っていることが予想できる。一方、公明党においては「コロナ」という言葉は多用されているものの、「公明党」や「都議会」といった言葉も目立つことから、直接的な呼びかけや情報提供以外にも「公明党」の政策案等も情報提供しているように思われた。公明党の他に、共産党のTwitterにおいても党名が大きく表れており、党内での発言の統一性がうかがえる。また、都民ファーストの会や公明党、無所属の議員の保有するTwitterにおいて、期間中に「net」「metro」「tokyo」など、英語での表記を頻繁に使用していることが多い。また、共産党では「ネット」「カフェ」といった単語も見られる。ブログではこのような発言は見られないため、Twitter特有の特徴であることが分かる。特に無所属のTwitterでは、英語表記の他に、「江戸川」や「死亡」といった単語があり、こういった点も、会派ごとの特徴を表していると言える。

また、それぞれのワードクラウドの大きさから、各会派の都議会議員の発言の活発さを読み取ることができるが、もっともワードクラウドの大きい都民ファーストの会では22名、自由民主党では4名、公明党では13名、共産党では14名、無所属では2名、立憲民主党では4名が期間中にTwitterで発信を行っており、これは、完璧にはないもののワードクラウドの大きさに反映されていることがわかる。



図1.9 Twitterアカウントを保有する都民ファーストの会 東京都議団の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=30)

都民ファーストの会の都議会議員については、「感染」「東京」「コロナ」「都」「新型」「協力」「月」の文字が目立つ。また、「都民」の単語も比較的大きく、東京都に関連した発言が多いと考えられる。コロナウイルス関連の幅広い話題について触れられているのが分かる。



自由民主党の都議会議員については、そもそも文字数がとても少ないが、他の会派のワードクラウドと比較し、「国」の文字が大きく出た。

図1.10 Twitterアカウントを保有する東京都議会自由民主党の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=30)



図1.13 Twitterアカウントを保有する無所属[東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会]の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=30)

無所属の都議会議員については、「コロナ」「東京」「江戸川」「tokyo」「緊急」「新型」「都」「感染」「ウイルス」の文字が目立った。全体的に文字は少ないが、他の会派のワードクラウドにはない「metro」の単語が大きく出た。



図1.14 Twitterアカウントを保有する立憲民主党東京都連合の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=30)

立憲民主党の都議会議員については、「コロナ」「都」「都議会」の文字を中心とし、他の会派のワードクラウドでも主要となっている文字のみが目立つ。Twitterの利用が少ないことがうかがえる。

【⑤都政与野党別】

与野党別では、2020年9月現在の都政における与党（都民ファーストの会 東京都議団）に属する議員のTwitterにおける発言（図1.15）と、都政における野党（東京都議会自由民主党、都議会公明党、日本共産党東京都議会議員団、無所属〔東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会〕、立憲民主党東京都連合）に属する議員のTwitterにおける発言（図1.16）についてそれぞれワードクラウドを作成し、分析を行った。頻出単語数は70語とした。

与党では「感染」がもっとも大きく、野党では「コロナ」がもっとも大きい。双方とも新型コロナウイルスの話題を中心に発信していることが見て取れる。野党では「コロナ」「東京」「感染」「新型」に次いで「支援」「給付」「協力」「緊急」などの新型コロナウイルスとそれに伴い休業を余儀なくされた施設や影響を受けた家庭などへの救済措置に関連するワードが大きく表示されているが、大して与党では「給付」の文字はなく、「支援」「補正」などはあるものの野党と比較するとやや小さめで、頻度はそこまで高くないことが伺える。また、与党では「感染」「東京」「コロナ」に次いで「協力」「休業」「要請」「支援」などが表示されている。また、会派に注目すると、与党では「ファースト」、野党では「公明党」「共産党」の文字が見て取れることから、野党側では公明党、共産党の都議会議員の発信がより活発であったことが伺える。



図1.15 Twitterアカウントを保有する都政与党に所属する議員の全文から生成したワードクラウド (freq=70)

都政与党のTwitterにおいては、「感染」がもっとも大きく表示されており、次いで「東京」「コロナ」が大きくみられ、また、新型コロナウイルスに関連する単語が大半を占めている。「休業」「要請」などから新型コロナウイルス感染拡大に伴い休業要請を呼びかけている発信が多いことが見て取れる。「患者」「陽性」「検査」「医療」などから医療現場に関する発信があることがわかる。また、「保育」の文字から子育てや家庭への影響に言及していたことがわかる。「オンライン」「テイクアウト」の文字もあり、感染拡大防止を前提とした新しい形での生活様式に言及していることが見て取れる。



図1.16 Twitterアカウントを保有する都政野党に所属する議員の全文から生成したワードクラウド (freq=70)

都政野党のTwitterにおいては、「コロナ」がもっとも大きく表示されており、次いで「新型」「感染」「東京」が大きく表示されている。また、「休業」や「要請」よりも「支援」「給付」が大きく表示されており、各企業へ休業要請を呼びかける発信よりも新型コロナウイルスの影響を受けた企業や家庭への支援に関する発言が頻繁に行われていたことがわかる。「補正」「支給」などの単語も見られる。また、各会派の名前であるが、「公明党」「共産党」のみ表示されており、都政野党の中ではこの2党が主に党名を含む発信を頻繁に行っていたことがわかる。

【⑥23区か否か】

23区か否かでは、選挙区が都内の23区である議員のTwitterでの発言（図1.17）と、選挙区が東京23区外である議員のTwitterでの発言（図1.18）を示す。頻出単語数は75語とした。23区内、外共に「東京」「コロナ」「感染」の文字が大きく出た。主要なワードは同じだが、23区内のワードクラウドでは「医療」「病院」「患者」の単語が見られた。一方で23区外のワードクラウドにはこれらの単語はなかったことから、23区内に感染者が多く、医療体制が逼迫した状況がうかがえる。また、23区内のワードクラウドに「オンライン」「ネット」「生活」の単語が見られ、区内から現在の「新たな生活様式」の形態が発信されていると考えられる。また、全体的を比較した時、23区内のワードクラウドの方が23区外のワードクラウドより単語数が多く、Twitterでの発言が23区内の都議会議員の方が多いと考えられる。他にも、23区内のワードクラウドでは、「保育」「相談」などの23区外のワードクラウドに見られない単語も見られ、支援に関する情報がより多く発信されていると考えられる。一方、23区内と23区外のワードクラウドのどちらにもある「自粛」の単語は、23区内のワードクラウドでは小さく、23区外のワードクラウドの方が大きく出ている。感染がより拡大している23区内よりも23区外の方が自粛に関する情報発信が割合として多くなっている。



東京23区の都議会議員については、「感染」「コロナ」「東京」「新型」「協力」「都」の文字が目立つ。また、「支援」「緊急」や、「休業」「給付」「要請」など、政策に関する単語が見られる。

図1.17 Twitterアカウントを保有する東京23区の議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=75)



東京23区外の都議会議員については、「東京」「感染」「コロナ」「協力」「支援」「新型」などの文字が目立つ。また、「要請」「検査」「緊急」「必要」「拡大」などの単語も大きい。

図1.18 ブログを保有する東京23区外の議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=75)

2. ブログ

対象：全都議会議員のうち、ブログを保有する議員の全文

期間：2020年4月7日～5月25日

方法：Rによりワードクラウドを生成し、頻出単語などを分析

品詞：名詞

分類：①全議員、②男女別、③世代別、④党派別、⑤都政与野党別、⑥23区か否か

除いた単語：記号（#,/,・等）,"これ","やす","ひろ","す","それ","きょう","これ","ly","html","bit","com","bit","E"



男性議員については、「感染」「コロナ」「東京」「緊急」「要請」「検査」「支援」「協力」「休業」などといった単語が目立っている。「公明党」という単語があり、女性議員のワードクラウドに表示されている党と異なっている。「予算」や「申請」についての発言も見られる。

図2.3 ブログを保有する男性の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=75)

【③世代別】

世代別は、東京都議会議員を30代～70代に分類し、頻出単語40語で分析した結果を示す（30代議員：図2.4、40代議員：図2.5、50代議員：図2.6、60代議員：図2.7、70代議員：図2.8[Freq=40]・図2.9[Freq=10]）。40代、50代のワードクラウドが最も大きくなっており、次いで30代、60代が大きなクラウドを形成している。70代はほとんどクラウドになっていないことから、世代によってブログの利用率に違いがあることが分かる。なお、70代については、Twitterでの分析と同様、頻出単語を10語とした結果も図2.9として示す。

ワードクラウドの結果から、東京都議会議員は40代、50代を中心にブログを利用していることが読み取れる。「感染」「東京」「コロナ」など、多くの世代に共通して見られる単語もあるが、世代ごとに違いが表れている部分もある。30、40代の「子ども」の文字が一番大きく、50、60代と年代が上がるにつれて文字が小さくなっており、また、30代や40代では「学校」「教育」「保育」「お子さん」「児童」という言葉も見受けられることから、30、40代という議員内で比較的若い世代を中心に子育てや教育について言及されていることが分かる。そして、40代の議員のブログ内容には、唯一「女性」が含まれているため、子どもや女性への情報発信が行われていることが分かる。「東京」という言葉については、30代～50代、70代においては使用頻度が高いが、60代では比較的文字が小さくなっている。次に、会派について見ると、30代では「共産党」、40代では「ファースト」、50代では「共産党」「公明党」、60代では「共産党」「公明党」、70代では「自民党」の単語が見られる。世代によって会派が変化し、また、多くの年代で「共産党」や「公明党」が頻出していることから、2党に所属する議員の発言頻度の高さがうかがえる。40代のブログには「家庭」「経済」、50代には「生活」「経済」など、家計に関する単語も見られることから、40代、50代の世代が最も家計について情報発信していることが考えられる。また、30代では、他の世代に比べ「私」という単語が大きく表れており、40、50代では小さくなり、60、70代では表示されていないことも分かり、若い世代の方が「私」という言葉を使って自分の意見や主張を発信していることが予想される。年代によって、「都議会」の文字の大きさにも変化が見られ、年が上がるにつれ大きくなることも分かる。このように、世代によってブログでの発言内容や頻度が異なり、発信したい情報に世代ごととまとまりがあることが分かる。



図2.6 ブログを保有する50代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=40)

50代では、「感染」「コロナ」「東京」「支援」「新型」「緊急」といった単語が目立っている。「都議会」「知事」「議員」「都議」「都知事」「会議」「都民」といった単語から、東京都のコロナウイルス関連の詳細について議員の立場から多く述べられていると考えられる。また、「共産党」「公明党」といった会派名が複数見られることも50代議員のブログ内容の特徴である。



図2.7 ブログを保有する60代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=40)

60代では、「感染」「コロナ」「支援」「新型」「都」「緊急」といった単語が多く見られる。そして、他の世代と比較すると「医療」という単語の出現頻度が高いため、他世代より医療関係の情報発信が多いことが分かる。また、「都議会」「予算」といった言葉も比較的大きく表れている。「東京」という言葉の使用頻度は低いが、「都」や「日本」といった言葉が他の年代より大きい。他の世代に比べ「小池」という単語が大きいため、都知事についてより言及していることが分かる。



図2.8ブログを保有する70代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=40)

70代では、「東京」という単語が多く発信されているが、ワードクラウドにほとんど文字が表示されていないため、他の世代と比較してブログを使っての情報発信があまりなされていないと考えられる。図2.9に表示される頻出単語数を増やしたものを示す。



図2.9ブログを保有する70代の東京都議会議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=10)

70代では、他の世代と同様に、「感染」「東京」「コロナ」という単語が目立つ。また、「自民党」という単語が見られるため、他の世代に比べ自民党の議員の発言が頻繁になされていることが考えられる。そして、他の世代に比べ「都議会」という言葉が大きいことも特徴的である。また、「幹事」「事務所」「打ち合わせ」といった、他の世代には無い言葉も見られる。対照的に、他の世代で見られるような、都や小池都知事に関する単語は見られない。

【④会派別】

会派別では、議員数の多い順に、都民ファーストの会 東京都議団（図2.9）、東京都議会自由民主党（図2.10）、都議会公明党（図2.11）、日本共産党東京都議会議員団（図2.12）、無所属〔東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会〕（図2.13）にそれぞれ所属する都議会議員のブログにおける発言の分析結果を示す。なお、都議会立憲民主党・民主クラブについては、期間内のブログの更新等が無かったため分析は行わなかった。この分析における頻出単語数は**50語**である。

全体の頻出単語を見ていくと、どの会派のブログにおいても、「**感染**」や「**コロナ**」という言葉が最も大きく、「**医療**」「**緊急**」「**対策**」「**要請**」「**協力**」など、全ての会派に共通する単語も多く見られる。しかし、会派ごとに少しずつ内容に違いも表れている。都民ファーストの会東京都議団、東京都議会自民党、無所属（東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会）では、「**東京**」という単語が目立っているが、都議会公明党、日本共産党東京都議会議員団のブログについては「**東京**」という単語がそれほど大きく表示されていない。また、「**支援**」という言葉は自民党のワードクラウドでは表示されておらず、公明党や共産党、無所属の議員から多く発信されていることが分かる。会派名は、自民党、公明党、共産党の党名がブログ内の発言で多いことから、党内で発言内容などがある程度一致しており、党名を使用した情報発信を行っていると考えられる。また、都民ファーストの会や共産党、無所属で「**子ども**」「**学校**」といった言葉や、「**教育**」「**保育**」「**家庭**」など、子育てに関するキーワードが目立っている。これらの相違点から、コロナウイルス関連の情報を提供していることはどの会派にも共通している一方で、会派によって政策内容や発信内容が少しずつ異なっているため、主張している部分（ワードクラウドに表れている言葉）がそれぞれの会派の特徴となっていることが分かる。



図2.9 ブログを保有する都民ファーストの会 東京都議団の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=50)

都民ファーストの会では、多くの言葉が発信されていることが分かる。「感染」「東京」「支援」「休業」「施設」「協力」「要請」「緊急」が目立つ。「子ども」「保育」「教育」「学校」といった子育て関連の話題や、「事業」や「営業」などの企業関連の単語も見られる。また、他の会派では見られない「経済」という言葉も存在する。「皆様」や「本日」「相談」「お願い」「都民」などの単語も見られ、定期的にブログの読者に情報発信を行っている」と推測することができる。「小池」「都知事」など、小池都知事（都民ファーストの会の特別顧問）についての単語が目立たないため、党で統一された情報発信というより、議員一人一人の発言がなされていると考えられる。

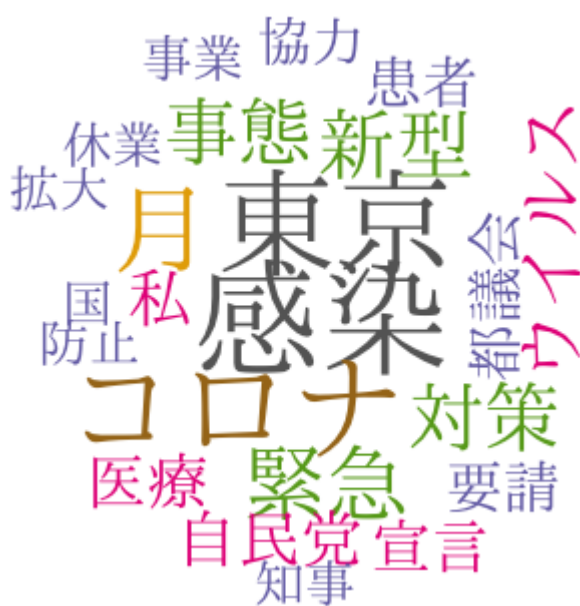


図2.10 ブログを保有する東京都議会自民党の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=50)

自民党では、「コロナ」「感染」「ウイルス」「東京」「対策」「要請」「事態」「緊急」など、コロナ関連の単語が目立つ。大きく表示される言葉がほとんどで、他の会派と比較して単語数が少なく、「自民党」が大きい。ブログを使用する多くの自民党議員の発言内容が共通しており、人々に伝えるべき重要なキーワードや情報を繰り返し発信していると考えられる。「私」という単語が他の党に比べ大きく目立っており、「医療」や「患者」といった言葉も他党より目立っている。

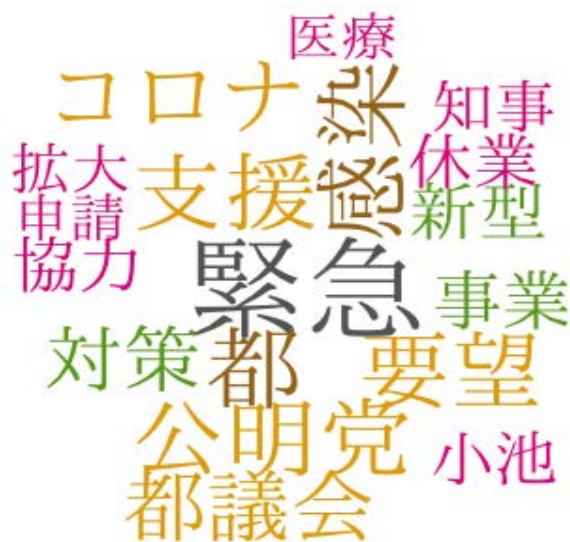


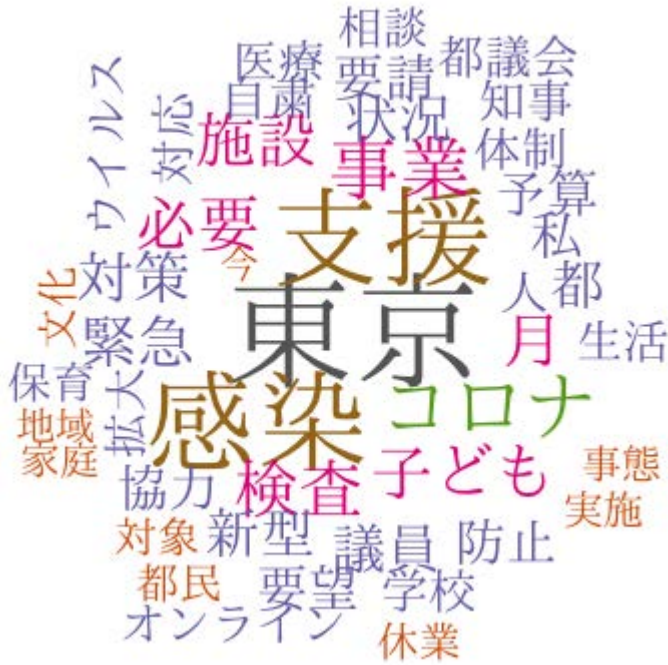
図2.11 ブログを保有する都議会公明党の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=50)

公明党では、他の会派で大きく目立っている「感染」や「コロナ」という単語に加え、「緊急」「支援」「公明党」「要望」「都議会」といった単語が目立っている。他の党に比べ党名がはっきり大きく表示されており、議員同士の団結がなされているように思える。また、「小池」「知事」といった小池都知事についての発言が他党に比べ多い。



図2.12 ブログを保有する日本共産党東京都議会議員団の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=50)

共産党では、「感染」「コロナ」「支援」「子ども」「医療」「協力」「事業」「休業」「検査」「学校」「児童」など、コロナウイルス関連の幅広い単語が目立つ。「東京」という単語が他党に比べ小さく、他の会派では見られない「日本」という単語があるため、東京のみでなく日本全体の状況について言及している議員がいると考えられる。

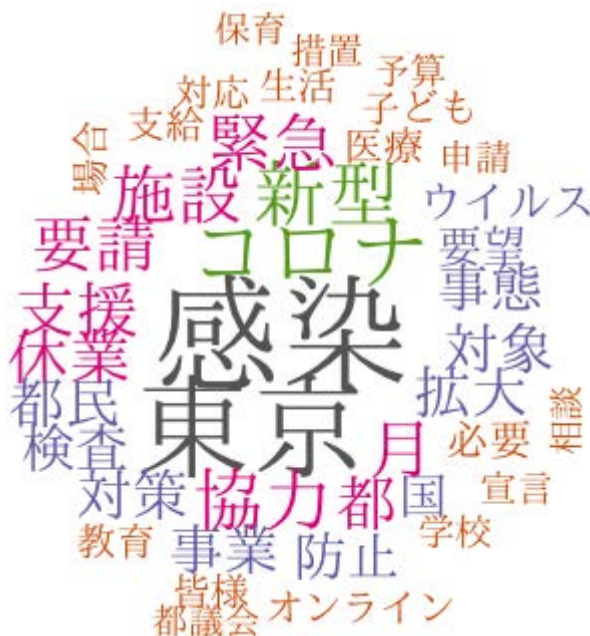


無所属（東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会）では、「東京」「支援」といった単語に加え、「子ども」「施設」「事業」「検査」などの単語が目立つ。加えて、「保育」「地域」「家庭」「学校」「生活」など、都民の生活についての情報発信が比較的多く見られる。また、他の会派では無い「文化」という言葉があることが分かる。

図2.13 ブログを保有する無所属（東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会）の議員の全文から生成したワードクラウド (freq=50)

【⑤都政与野党別】

与野党別では、2020年9月現在の都政における与党（都民ファーストの会 東京都議団）に属する議員のブログにおける発言（図2.14）と、都政における野党（東京都議会自由民主党、都議会公明党、日本共産党東京都議会議員団、無所属〔東京みらい、都議会生活者ネットワーク、自由を守る会〕、立憲民主党東京都連合）に属する議員のブログにおける発言（図2.15）について、それぞれワードクラウドを作成し、分析を行った。頻出単語数は70語とした。まず、ワードクラウドの大きさから与党からの発信よりも野党からの発信の方が多かったことがわかる。また、与党では「感染」「東京」がもっとも大きく表示されており、「協力」「施設」「要請」「支援」「休業」がそれに次ぐ形となっている。野党では「感染」がもっとも大きく出ていて、「支援」「コロナ」「東京」がそれに次いで大きい。そのほかにも野党では「対策」「事業」「都」「協力」「検査」「都議会」「拡大」「医療」なども単語も目立っており、新型コロナウイルス感染拡大、事業や医療現場などの話題へ言及していたことがわかる。また、野党では「休業」や「要請」よりも「支援」が大きく表示されており、各企業へ休業要請を呼びかける発信よりも新型コロナウイルスの影響を受けた企業や家庭への支援に関する発言が頻繁に行われていたことがわかる。また、「子ども」「学校」「生活」などの単語も野党の方がやや大きいものの与野党共通して登場しており、家庭への生活の変化に言及していたことがわかる。また、野党では「公明党」「共産党」の文字が見て取れることから、野党側では公明党、共産党の都議会議員の党名を含む発信がより活発であったことが伺える。



都政与党については、「感染」「東京」「コロナ」に加え、「協力」「施設」「要請」「支援」「休業」などの言葉が目立っている。「子ども」「学校」「保育」「教育」といった単語もあり、また、「事業」「都民」「医療」「検査」といった言葉も見られるため、多くの人々に対する情報発信を行っていることが分かる。都政与党である都民ファーストの会の名前は表示されていない。

図2.14 ブログを保有する都政与党に所属する議員の全文から生成したワードクラウド (freq=70)



図2.17 ブログを保有する東京23区外の議員の全文から生成したワードクラウド (Freq=100)

東京23区外では、「感染」「コロナ」などの他に「支援」「東京」「事業」「検査」「協力」「施設」「休業」といった単語が特に目立つ。「子ども」「学校」という言葉が23区に比べ比較的大きく表れている。「共産党」という言葉が見られ、23区ではどの会派の名前も挙がらなかったことから、23区外の共産党の議員らの発言の比率が比較的高いことが考えられる。